

【名古屋国税局長賞】

「新たな税と日本の将来」

磐田市立豊岡中学校 三年 渡邊 華音

二〇二二年九月二十四日、外から窓を叩きつけるような暴風雨の音が聞こえる中、テレビでは、私が住む豊岡地区が放送されていました。ですが、私はテレビに映る光景がいつもの慣れ親しんだ地域とは信じられませんでした。そこに映っていたのは、普段の穏やかな面影がない荒れ狂った敷地川だったからです。私は本当に大きな衝撃を受けました。

この大雨で豊岡地区は、それまでと大きく姿を変えてしまいました。特に、敷地川は大雨の影響で上流の倒木が川に流れ込み、水路の障害となった結果、決壊してしまいました。周辺地域は、家屋の浸水や橋の倒壊などの甚大な被害を受けました。さらにその翌年も豊岡地区は大雨による大きな被害を受けました。

それから月日が経ち、現在は復興作業が進められています。皆さんは、地域復興の資金がどう成り立っているか知っていますか。実はこの資金には、私達の税が使われているのです。加えて、壊れてしまった橋の再建築にも、税が活用されているそうです。私は、今まで税の恩恵を実感せずに、生活をしていました。しかし、もしも税の存在がなかったら私は二度と、災害前の豊岡を見ることができなくなっていたと思います。ここから税に興味を持った私は、税について調べてみることにしました。

早速、検索してみると今年度から新たに導入された「森林環境税」に関する記事を見ました。この税は、日本の森林を守ったり、地球温暖化の防止をしたりすることを目的として、森林整備や林業への人材育成などに活用されます。私はこの森林環境税が、今後の豊岡地区、そして日本において重要な役割を担うものではないかと考えました。前述の通り、敷地川の決壊の要因の一つに、倒木がありました。私の住む豊岡地区はとても自然が豊かな地ですが、森林整備をする人が足りず、放置されて荒れた森林が多く存在します。そんな中、大雨が降ったことで朽ちた木が折れてしまい、川に流れ込んだことで大きな被害につながってしまいました。ここで森林環境税の出番です。この税が機能すれば、もし、また豊岡地区で大雨が降ったとしても、被害は過去二回のものよりも格段に小さいものになります。また、豊岡地区に留まらず、この税を国内で広く活用していけば、地球温暖化の防止や、水質改善などにもつながります。新たに取り入れられたこの税への期待は高まるばかりですね。

税は、もちろん良い面だけを持つてはありませぬ。税は国民にとって、時として負担となります。私は、今後も森林環境税のような新たな税が導入されていくと考えます。ですが、私も実感したように、税は必ず私達の身の回りの生活を支えてくれています。そんな身近な存在だからこそ、税の使われ方や意味を理解した上で、きちんと税を納めることが大切だと、私は思いました。

【磐周納税貯蓄組合連合会 会長賞】

「 税の印象、日本の未来 」

磐田市立豊岡中学校 三年 伊藤 聖夏

税、と言われるとどのようなイメージをもつだろうか。私が直接払う税は消費税くらいだからというのもあるだろうが、私は税に対してプラスのイメージをもっている。理由は単純で、私の日常は税の恩恵の上にあると言っているからだ。義務教育中は多種多様な費用が無料になったり、医療費が免除になったりしている。これがなければ出会うことのできなかった同級生がいたかもしれないと思うと税のありがたみを強く感じる。しかし、主な納税対象である親に税への印象を聞くとあまり好ましくない反応が返ってくる。その理由は、ニュースで聞く政治家の汚職問題や議会での居眠りをする議員の話などを聞くと、自分たちの納めた税が無駄にされていると感じるからだそうだ。たしかに、今は間違った使われ方をする税がよくニュースで取り上げられ、問題視されている。とはいっても、正しく世に役立てられている税と比べると、間違った使われ方をする税は微々たるものだけと言えるだろう。しかし、世間の人は納税で受ける大きな恩恵よりも小さな損の方に注目し、税に負の印象を抱いてしまうのだ。ただ、それは人間のポジティブな情報よりネガティブな情報の方に注意を向けやすく記憶に残りやすいという性質から至極当然のことと言える。だから、税に良い印象をもってもらいたいならまずそこを解決する必要があると言える。

また、日本の国債残高が多すぎるといふことも税における課題である。度々議論となる「増税」もこの問題を解決していく手段の一つだ。それなのにも関わらず「増税」に対する反対の意見が多いのは税に対するマイナスのイメージが強いからだろう。このままイメージが変わらなければ増税などできるはずがない。だからこそ、自分たちの生活は税による多大なる恩恵を受けていることを国民全員が理解し、納税を一緒に嫌がらないようにする必要がある。

税が間違った使われ方をしないこと。それに加えて国民の税に対する正しい知識が広まることで、「税」という言葉はより良いものになる。税の問題は今を生きる私たちの世代だけでなく、未来の世代に重くのしかかる問題である。税は国をより良い方向に行かせるために使わなければならない。税は国を明るくできる大切な手段なのだ。税への印象は日本の未来を変える。税を納めるのは私たちが未来を創るのも私たちが日本を未来に忘れてはならない。税の大切さを忘れてはならない。これを国民が建設的に胸に刻めることができたなら、未来の日本は明るいと言えるだろう。

【磐田税務署長賞】

「 「ありがとう」を納める 」

磐田市立神明中学校 三年 磯部 心迪

なぜ、みんなは「税金」を嫌々納めるのだろうか。本当は、感謝の気持ちを持って納税すべきなのに。日本の国民の誰もが、税金に助けられながら今を生きている。最近では、それを忘れている人が多い気がする。人は、税金による恩恵を当然のように受け入れ、税金を納めることで生じる負担に視点を向けてしまっている。

私は幼少期から食物アレルギー、花粉アレルギーを持っている。約十年間、月に一回病院に行き、毎日薬を飲んでいる。この受診や薬は無料だ。磐田では、十八歳までの医療費を無料化する子ども医療費の制度がある。この制度が成り立つのは、税金が納められているからだ。私は、最近まで自分の医療費が無料だということを知らなかった。考えてみると、学校で使っている教科書や机などの義務教育にかかる費用、毎日のように歩いている道路の整備にかかる費用など、自分が住んでいる市だけでもさまざまなおきに税金が使われていることに気づいた。また、国をおさめている政治家をはじめ、市役所の職員や警察官、消防士、教師といった公務員の給料も、税金で支払われている。

日々お世話になっていたり人やもののために私たちは税金を納めているのだから、嫌々納税するのは違う気がする。もし日本に住んでいる人々全員が税金を納めなくなればどうなるか考えてほしい。税金で働いていた人たちがいなくなり、税金を使って建てられた公共施設やサービスがなくなったり日本はどんな姿をしているだろう。建物や道路の整備ができなくなったり、ゴミが市にあふれ不衛生になったり、犯罪の取り締まりが行われず治安が乱れたり、今の安心・安全な日本とはかけ離れた日本がそこに待っている。

日本には、約五十種類の税金があるため、私たちへの負担は大きい。それでも税金を納めるのは、安心・安全な暮らしをするため、将来日本で生きる人々が幸せであるためだと思う。「税金」とは、何のためにあるのかを考えることで、やっとな感謝の気持ちをもって納税できるのではないだろうか。

私が「税金」を身近に感じるときは、買い物をしたときに生じる消費税を納めるときだけだ。これから年齢を重ねていくにつれて、納める税の種類が増え、負担も大きくなっていくだろう。それでも、私は税金によつてつくられた環境、安心・安全な日本を守ってくれている人々に、常に感謝の気持ちを持って納税できる大人になりたい。

【磐田税務署長賞】

「 税に支えられた学校生活 」

学校法人磐田東学園 磐田東中学校 三年 栗原 莉乃

私たちは毎日、当たり前のように一日の大半を「学校」で過ごしている。でもそうやって当たり前前に学校で過ごすことができているのは、「税」の存在があり、そして「税」を払ってくれている人々の存在があるからである。

「所得税」「法人税」「相続税」。私にはよく理解できないものが多くある。そんな多くの税に対し、母は不満をこぼすこともある。そんな中私が払えるものは、少量の消費税ぐらいで、他になにかできるわけではない。しかし、私たちがやるべきなのは税金を払う払わないの問題ではなく、払えないなりに税で支えられた生活に感謝して過ごすことだと思う。

設備や道具、教科書など、あらゆるものが税金で支えられた学校を、あなたはどうやって、どんな思いで過ごしているだろうか。小学校、中学校を過ごしてきて、振り返れば数え切れないほどたくさん思い出や経験がある。毎年欠かさず行われる運動会、体育大会や小学校生活が終わりに近づく頃の修学旅行などの楽しい行事や、職場体験、社会科見学など社会を知るきっかけとなる貴重な経験。これらは学校で生活できているからこそ成り立っているものである。

「学校に行くのが面倒くさい。」そう言う人はたくさんいる。私だってそう思うころとはあるし、その思いを否定したくはない。でも、学校に行きたくても行けない人がいて、こうして学校に行けているのは税によって支えられているからこそであり、当たり前ではないことは知っておいてほしいと思う。

今大人になって税金を払ってくれている人々の多くには、私たちと同じように学生の時代があったと思う。税金に支えられた時代があったからこそ、今税金を払ってくれている。学生の私には税金はほとんど払えない。だから、税金が支えてくれる学校生活に感謝し、大切に過ごしていきたい。そして次は私たちが税金で支える番だ。私たちが支えられた分、次の社会を担う多くの学生を、支えていきたい大人になりたい。